

駐日ロシア連邦大使

ミハイル・ユリエビッチ・ガルージン様

## ロシア連邦のウクライナ侵攻に抗議し、即時停戦と軍の撤退を求めます

2月24日、貴国のプーチン大統領は、ウクライナへの軍事侵攻に踏み切りました。

私たちは、ウクライナ国境付近にロシア軍が集結しているというニュースを聞いて以来、戦争にだけはなってほしくないと願ってきました。しかし今、ロシア軍は圧倒的な兵力でウクライナに侵攻し、暴力と殺戮を行っています。

その攻撃の矛先は軍事施設だけではなく、ライフライン・住宅・スーパーマーケット・市庁舎・オペラハウスなど、あらゆる民間施設と一般市民にも向けられていると聞きます。その結果子どもを含む多くの市民が犠牲になり、命を失ったり大怪我をしたりしています。今回の侵攻が平和維持であり、自衛であるという貴国の説明には、まったく説得力がありません。

戦闘に追われ、多くの女性や子どもが難民となって近隣諸国に避難を始めました。彼女たちから「もう帰れるかどうかわからない」という言葉を聞くと、一瞬にして生活を根こそぎ奪われた痛ましさに、涙が出てしまいます。

日本でも、多くの人が今回の侵攻に対して、怒りと許すことができない気持ちをかかえています。私たちは、東京の都立高校に勤務していた退職者の集まりですが、やはり今回の事態に対しては許せない、ということで意見の一致をみました。そこで今回、駐日ロシア連邦大使に私たちの意思をお伝えしようと考え、この抗議文を送らせていただく次第です。

私たちは、スラブ民族特有の切ないメロディのロシア音楽や民謡、そしてロシア文学にも心を寄せてきました。クリスマスには「くるみ割り人形」の上演や演奏も行われています。ロシアの芸術や民族に対する深い敬愛と親しみを持っています。だからこそ、今回の武力で命を奪い、領土を奪い、人の心まで支配する侵攻は許すことができないのです。私たち都高教退職者会は、貴国の、ウクライナへの軍事侵攻に強く抗議し、即時停戦とロシア軍の撤退を求めるものです。

ウクライナの人びとをこれ以上殺し、傷つけないでください！

そして兵隊になったロシアの若者も、これ以上殺さないでください！

今すぐ、流血の事態をやめ、話し合いで事態を解決する道を選んでください！

2022年3月2日

東京都高等学校教職員組合退職者会